

長谷寺

はせでら

長谷寺の本尊十二面観音を拝した者は、まずその大きさに圧倒される。実際、木彫観音像としては、日本最大級を誇る。そして、幾重にも美しい裳をなして垂れる裳は、清らかな細波を見るようだ。

開山は徳道、開基は藤原房前と伝え、これは奈良の長谷寺とまったく同じだが、そもそも両寺の本尊は同木からつくられたという伝説がある。縁起によれば、奈良時代、楠の霊木から、徳道上人の本願にもとづき、2尊の十二面観音が三日三晩で彫り出された。このうち一体が奈良長谷寺の本尊となり、もう一体は開眼供養を修した行基により、有縁の地で衆生を済度するようお願いを込められて、海中に奉じられた。すると天平8年(736)、この尊像が三浦半島の洋上に現れて岸に流れ着き、藤原房前によって鎌倉に遷座され、長谷寺開創の礎になったという。

阿弥陀如来坐像

木造、像高280センチ、室町時代。観音堂の右手に建つ阿弥陀堂の本尊。もとは長谷観願寺(現在は廃寺)の本尊だった。



十二面観音は右手に数珠をもつ例が多いが、長谷寺系の十二面観音は、地藏菩薩のように錫杖をとり、方形の岩座(金剛宝盤石)に立つという独特の様式をもつ。

ただし、現在の本尊は建造年を特定できず、おそらく室町時代ころのものとして推定されている。

広大な寺域をもつ長谷寺だが、鎌倉時代まではくわしい記録が残っておらず、確実な創建年代も不明だ。有名でありながら、意外に謎が多いというのが長谷寺の特徴だが、巨像の存在感は、この寺がもちつづけてきた信仰の厚みを無言で伝えている。

写真11本田孝

長谷寺(浄土宗系単立)

鎌倉市長谷3-11-2 ☎0467-22-6300 ●江ノ電長谷駅より徒歩5分 ◎拝観情報: 入山料300円(小学生100円)。拝観時間8~17時半(3~9月)、8~16時半(10~2月)。宝物館100円(小学生以下無料)、入館時間9~16時(火曜休館)。

境内の観音堂(右)と大黒堂。大黒堂の2階が宝物館。



観音三十三応現身立像

木造、像高94~107センチ、室町時代前~中期。宝物館に展示。もともとは本尊大観音像の両脇の棚段に安置されていた。



海を渡ってやってきた
長谷の大観音



十二面観音立像

木造、像高918センチ、室町時代ころ。光背は関東大震災で破損したが平成3年に新たな光背が西村公朝監修のもと再興された。